



姿消す合格掲示板



合格発表のあった掲示板の前で記念写真を撮る受験生と保護者=21日、大分市牧の大分高専

大分大、県立高ネットのみ

「需要ある」残す学校も

入試の合格発表で校内の掲示板を使う学校が県内で少数派になっている。大分市の県立芸術文化短大や大分高専は今年も掲示し、自分の番号を見つけて喜ぶ受験生の姿があった。一方、新型コロナウイルス禍で取りやめた大分大や県立高は「見に来る人が少ない」「準備に手間がかかる」との理由で再開しないことを決めた。掲示板の前で合格者の笑顔が広がる「春の風物詩」が姿を消しつつある。

大分高専は21日に合格発表があった。午前10時、受験生や保護者ら約50人が見つめる中、合格した160人分の受験番号が掲示板に張り出された。「あったよ」「やったー」と歓喜の声が上がった。

両親と訪れた大分市大東中3年の生島勇輝さん(19)は「第1志望なのでほんとに満面の笑みを浮かべた。インターネットでも公表しているが、父の勝彦さん(47)は「学校に来た方が実感が湧く。家族で見届けることができている良い思い出」

大分高専は「出になる」と語った。同校の松本佳久副校長(59)は「昨年より見に来る人が多いと感じた。まだまだ需要はある」と話した。県立芸術文化短大も20日にネットと掲示板で発表した。合格した大分西高3年の荒川遼南さん(17)は「コロナ禍で高校受験は掲示がなくなり、さみしかった。掲示板の前で友人と喜び合うのに憧れていたのだけれど、いい」と明かした。

教務学生部は「県外の受験生も多く、見に来る人は正直少ない。けれど、記念

写真を撮るのを楽しみにしている人もいるのでやめる予定はない」と説明した。ただ、掲示する学校は減っている。県内の5大学では県立看護科学大のみ継続。私立の立命館アジア太平洋大、日本文理大、別府大は10年以上前からネットや郵送で合否を知らせているという。

コロナ禍を機に掲示をやめた大分大は、今年もネットのみとした。入試課は「以前も見に来る人は合格者全体の1割以下だった。準備も大変だった」と振り返る。県立高も全校がネットに切り替え、各高校の専用サイトに合格者番号を掲載する。県教委高校教育課は「利便性が高く、受験生や保護者、高校側にも負担が少ない」と理由を述べた。

県中部の中学校長(59)は「皆と一緒に喜びたいから変わり、合格発表の日にも生徒が学校へ報告に来ることも少なくなった。これも時代の流れではないか」との見方を示した。

(安里葉冬)



〔問①〕今年も校内の掲示板を使った大分高専の副校長は、その理由をどのように話していますか？

答え 【 まだまだ需要はある 】

〔問②〕取りやめている大分大の担当は、その理由をどのように話していますか？

答え 【 「見に来る人が少ない」 「準備に手間がかかる」 】

〔問③〕あなたは掲示板発表をどう思いますか？ 話し合ってみよう。

※自由記述